

地域ケア会議の推進について

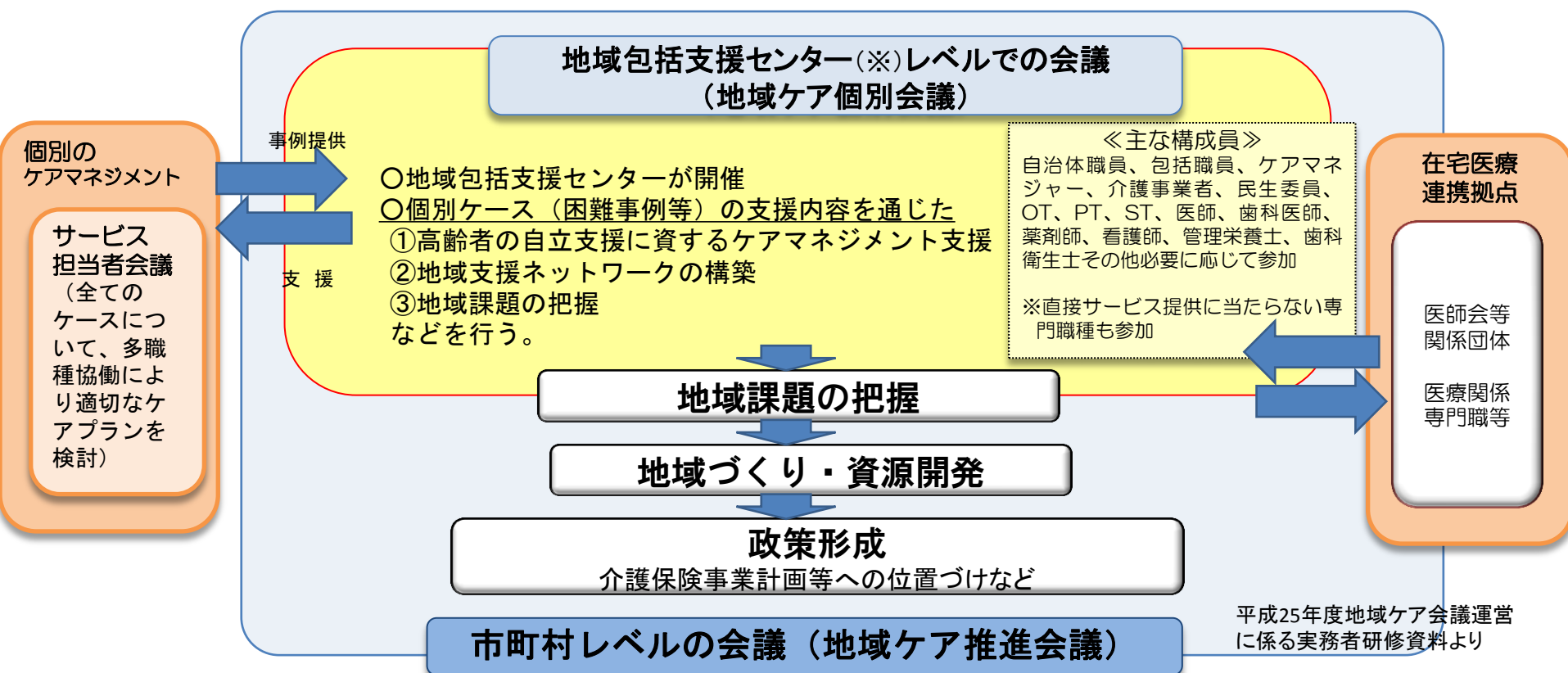
平成26年10月22日(水)
鶴岡市健康福祉部長寿介護課
地域包括支援センター

地域ケア会議

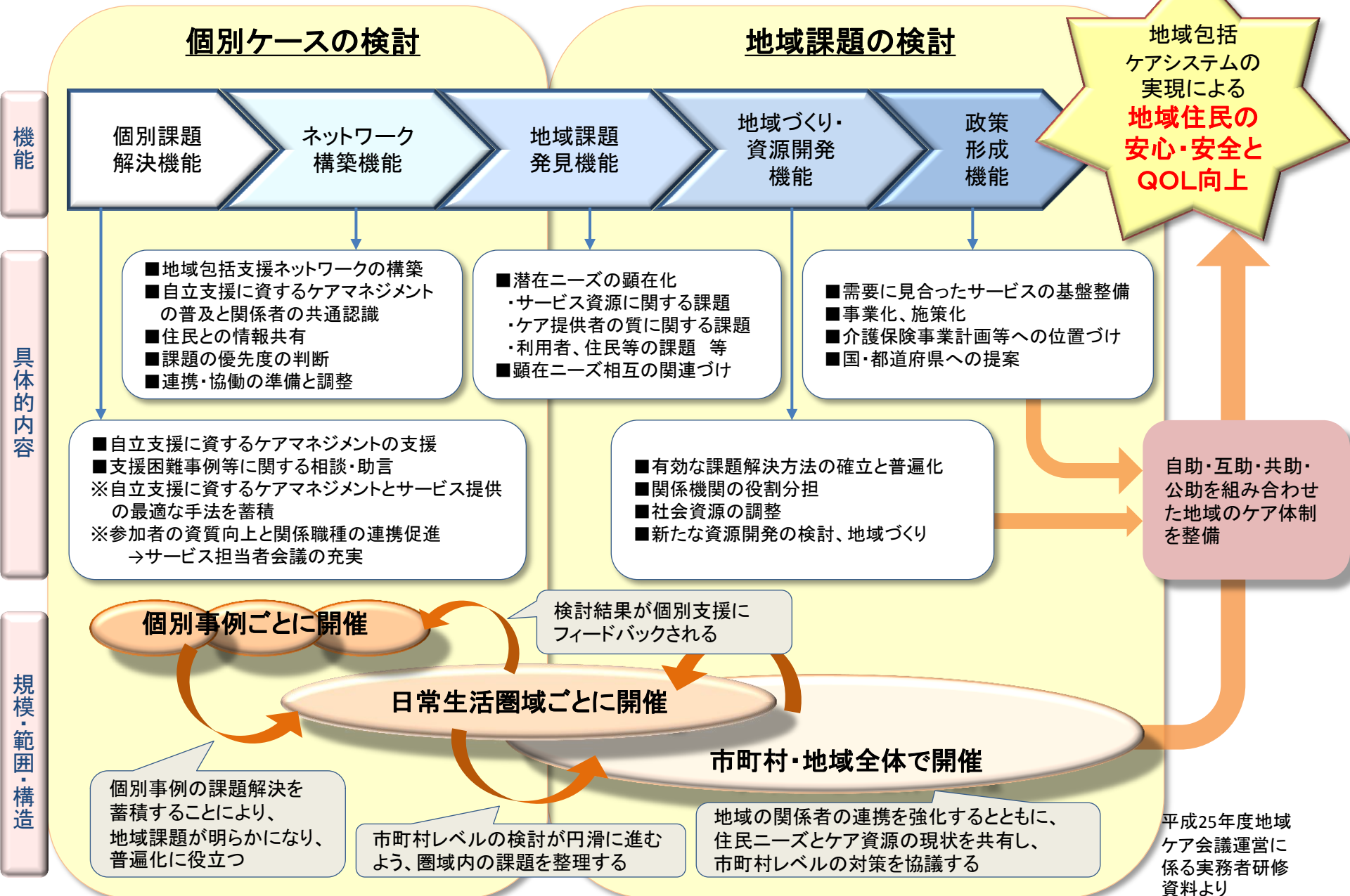
地域ケア会議は、高齢者個人に対する支援の充実と、それを支える社会基盤の整備とを同時に進めていく、地域包括ケアシステムの実現に向けた手法。

具体的には、地域包括支援センター等が主催し、

- 医療、介護等の多職種が協働して高齢者の個別課題の解決を図るとともに、介護支援専門員の自立支援に資するケアマネジメントの実践力を高める。
- 個別ケースの課題分析等を積み重ねることにより、地域に共通した課題を明確化する。
- 共有された地域課題の解決に必要な資源開発や地域づくり、さらには介護保険事業計画への反映などの政策形成につなげる。



(参考)「地域ケア会議」の5つの機能



※地域ケア会議の参加者や規模は、検討内容によって異なる。

鶴岡市の取組み

【経過】

H25.1.30 試行的に地域ケア会議の開催

H25.2.14 先進地視察(埼玉県和光市)

H25.6.10 地域ケア会議個別会議勉強会開催

H25.9.26

鶴岡市地域ケア会議プロジェクト会議を設置

構成:行政関係者

地域包括支援センター管理者

H26.4.1

地域ケア会議個別会議マニュアルの作成

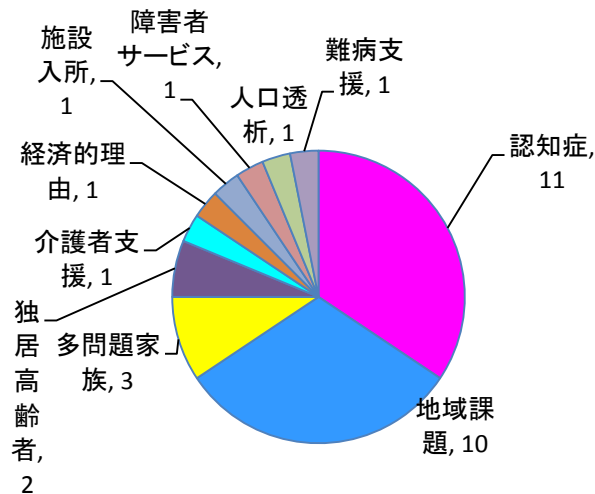
平成27年度

地域ケア推進会議(仮称)を設置予定

地域ケア会議実施状況

| | | H26.9.30現在 |
|-----|-------------|------------|
| No. | 地域包括支援センター名 | 開催回数 |
| 1 | 市包括 | 3 |
| 2 | 社協(本センター) | 0 |
| 3 | 社協(なえづ) | 1 |
| 4 | 社協(おおやま) | 1 |
| 5 | 社協(とようら) | 0 |
| 6 | 社協(くしびき) | 0 |
| 7 | 社協(あつみ) | 1 |
| 8 | つくし | 3 |
| 9 | 健楽園 | 2 |
| 10 | 永寿荘 | 0 |
| 11 | しおん荘 | 2 |
| 12 | ふじしま | 14 |
| 13 | かみじ荘 | 5 |
| 14 | あさひ | 0 |
| 15 | 総計 | 32 |

| 個別会議テーマ | 件数 | |
|---------|----|-------|
| 認知症 | 11 | 34.4% |
| 地域課題 | 10 | 31.3% |
| 多問題家族 | 3 | 9.4% |
| 独居高齢者 | 2 | 6.3% |
| 介護者支援 | 1 | 3.1% |
| 経済的理由 | 1 | 3.1% |
| 施設入所 | 1 | 3.1% |
| 障害者サービス | 1 | 3.1% |
| 人口透析 | 1 | 3.1% |
| 難病支援 | 1 | 3.1% |
| 総計 | 32 | |



表在化された地域課題

| 地域課題の類型 | 件数 |
|-----------|----|
| 認知症支援 | 15 |
| 独居者の支援 | 7 |
| 要援護者の支援体制 | 6 |
| 町内会の福祉体制 | 4 |
| ペット | 3 |
| 多問題家族 | 3 |
| 地域資源の把握 | 3 |
| キーパーソン不在 | 3 |
| 若年要援護者 | 3 |
| 個人情報保護 | 2 |
| 消費者被害 | 2 |
| 民生委員との協働 | 2 |
| でかける場 | 2 |
| サービスの不足 | 2 |
| その他 | 3 |
| 合計 | 60 |

【地域課題例】

- ・認知症に対する無理解(不安感)
 - ・認知症高齢者を検索する際における情報共有・体制の整備
 - ・認知症の診断が医師によってまちまち
 - ・ゴミだし等を自力でできない家族が増えている
- ペットの管理ができなく、近隣に迷惑をかけている。
- ・緊急時の連絡先を引き受けてくれるご近所の不在。
 - ・もともと近隣との関わりが良くない人が、個人情報保護法が施行されたことで、さらに関わりにくくなった。

不足しているサービス等

| 不足しているサービス | 件数 |
|---------------|----|
| 認知症 | 6 |
| 軽度生活支援 | 4 |
| 見守り | 4 |
| レスパイト | 2 |
| 経済的課題 | 2 |
| 地域の支援員 | 2 |
| キーパーソン | 1 |
| ペット | 1 |
| 温海エリアの介護サービス | 1 |
| 介護支援専門員のマネジメン | 1 |
| 気軽に集まる場 | 1 |
| 消費者被害対策 | 1 |
| 障害福祉サービス | 1 |
| 独居高齢者支援 | 1 |
| 予防対象者の把握 | 1 |
| 総計 | 29 |

【不足サービス具体例】

- ・レスパイト入院先
- ・民生委員以外のインフォーマルな見守り支援
- ・認知症専門医による往診
- ・認知症高齢者見守りサービス
- ・ちょっとした手伝いの手(ゴミ出しや、声掛け)
- ・施設入所や死亡などで飼い主がいなくなったあとのペットの対応。
- ・歩いていける範囲で気軽に行ける場所
- ・訪問販売等の悪徳業者が来た場合、地域全体で住民を見守りできるシステムや環境づくり
- ・親族が遠方の高齢者が増加。申請や通院時に対応できる方がいない。権利擁護に乘せるまでも時間がかかる。

地域ケア会議の課題

- 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるためには、医療との連携、自助・互助・共助・公助の適切なコーディネート、サービス資源の開発など、包括的なケアシステムの構築が必要であり、地域ケア会議はその実現のための重要な手段として位置づけられている。
- 地域ケア会議は多職種により個別事例の検討を行うが、それを積み重ねることを通じて以下の実現が期待できる。
 - ・ 高齢者の課題解決の支援と介護支援専門員の自立支援に資するケアマネジメント能力の向上
 - ・ 高齢者の実態把握や課題解決を図ることを可能とする地域の関係機関等の相互の連携による地域包括支援ネットワークの構築
 - ・ 個別の課題を解決する中で浮かび上がってくる地域の資源不足やサービス量の課題などについて、地域で必要な取組を明確化し、それを政策へ反映させること
- 地域包括支援センターの取組を通じ、町内会の役員等これまでの事例検討会で入ってこなかった地域の方を含めて検討することにより、地域の人々が地域課題として受け止め、町内会の役員会で話し合ったなど、地域の福祉力の向上にも寄与している取組みになっている。
- 現状は、地域包括支援センターが受けた困難事例が中心になっており、今後、全介護支援専門員を対象に実施することが求められているため、負担なく効果的な取組みの検討が必要である。
- 在宅の限界点を上げるため、表在化された課題や、不足しているサービスから互助、共助、公助の仕組みづくりにつなげるために、市レベルの「地域ケア推進会議（仮称）」の設置を図らなければならないが、効果的な取組みにつなげるための、組織化が課題である。